

全国日青の伝統を固持し、 新たな活動への取り組み



第三十代会長
千葉県南部日青会
小泉 輝泰

第三十代執行部の活動も、気が付けば早一年半となりました。次世代を見据えた法人への新たな取り組み、当会初となる全日仏青理事長への就任を果たすべく、役員規約改正による顧問の設置や特別委員会の設立等、発足以来様々な問題に直面しながらも、皆様のご理解とお力添えをいただきながら、一つ一つ真摯に向かい合い、そして乗り越えることが出来ました。残り半年あまりとなりましたが、執行部一同、最後まで全力疾走でゴールまで走り切りたいと思います。



全日本仏教青年会担当委員長
栃木県日青会
野澤 智秀

この度、伊東政浩上人が第九期全日本仏教青年会理事長に就任され、それに伴いまして私が全日本仏教青年会の事務局長を仰せつかりました。

六月の高知結集に於いて、全日青から出向される伊東上人は全日青顧問、私は全日本仏教青年会担当委員長として会務を遂行する運びとなりました。

全日青として全日本仏教青年会の理事長に就任する名誉と、そのお手伝いをさせて頂けるご縁に深く感謝しております。ご指導・ご支援・ご協力を深くお願い申し上げます。

「渡邊清明上人御遷化される」

全国日蓮宗青年会第五代委員長、渡邊清明上人が去る平成二十四年三月五日に御遷化されました。

ここに上人の略歴と『全国日青』第三十五号（昭和四十六年三月発行）の委員長就任御挨拶を紹介申し上げ、哀悼の誠を捧げます。心より増圓妙道を御祈念申し上げます。

合掌

渡邊清明上人 略歴

女游院日快上人
げんゆういん じつかいしょう

昭和十六年一月七日誕生

平成二十四年三月五日命日 世壽七十二歳

東京都江戸川区篠崎 妙勝寺 第四十五世

第五代 全国日蓮宗青年会委員長

立正大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了

昭和三十八年七月より 東京都江戸川区篠崎妙勝寺住職

昭和四十五年五月 全国日蓮宗青年会委員長就任

昭和五十二年十一月 日蓮宗現代宗教研究所調査部主任

昭和五十五年四月 日蓮宗現代宗教研究所主任

平成元年十一月 日蓮宗宗会議員

平成七年七月 日蓮宗総合企画部長

平成七年十一月 立正大学学園評議員会長

平成十二年四月 日蓮宗宗務総長

平成十二年四月 日蓮宗大法功賞受賞

平成十五年四月 日蓮宗宗務顧問

日蓮宗専任布教師。伝道対策委員、制度研究委員会委員、制度研究委員会研究員、日蓮宗新聞編集委員会委員、日蓮聖人第七百遠忌布教師、立正大学学園振興委員会委員、教育制度検討委員会委員、世界立正平和運動委員、他教団対策特別委員会委員、立正平和運動委員、阪神大震災対策会議委員、災害対策救援委員、祖山中心体制調査委員、日蓮宗総合財団常務理事、日蓮聖人門下連合会常任理事、財団法人全日本仏教会評議員、中山妙宗合同処理委員会委員、宗教問題検討委員会委員、年金制度運営会議委員、管長推戴委員会委員、災害対策本部副本部長、立教開宗七五〇年慶讃会実行委員会委員長及び顧問、立教開宗七五〇年慶讃会会長及び顧問、など宗門内外の重職を歴任。全国日蓮宗青年会委員長就任時は、全国信徒青年会結成及び信徒青年の集い、非住職選挙権獲得に対する活動に従事。



活動報告 1

東日本大震災
第三回忌慰霊合唱題行脚

■ 岩手県野田村・宮古市田老町

震災復興担当委員長 梅澤宣周

東日本大震災第三回忌慰霊合唱題行脚の前日、岩手県内は異例の暴風警報。県内交通網は多数乱れる事態になった。東北新幹線の遅延、JR東日本の在来線で多数運休、花巻空港での多数欠航、東北自動車道通行止めにより主要道で大渋滞。内陸部で一〇〇戸以上の停電があった。暴風暴雪よる天候にて前日入りする青年僧が予定時間より大幅に遅れ、夜中に到着する方々も多くみられた。

行脚当日の三月十一日。そんな前日の悪天候が嘘のような快晴の空。陽は差すものの肌に突き刺さす風は冷たく冬のなごりを感じた。厳しい寒さが垣間見る、宮古市田老町(以後田老地区)へ二十八名、野田村(以降野田地区)へ二十六名、総勢五十四名、全国から青年僧が集結した。

正午過ぎ、行脚隊がスタート。行脚拠点となる宮古・本照寺様、久慈・立正寺様にて慰霊と復興祈願の読誦会を奉行。午後一時、両地区にて行脚隊が列を連ねた。しかし暴風の影響が残っており、両地区とも玄題旗を掲げることが断念した。田老地区は新しくなった田老漁港を黙祷の地として、世界一の防潮堤の上を行脚。野田地区は綺麗になった海岸砂浜を黙祷の地として、津波被害で全壊になった地区を行脚した。

団扇太鼓は強風により幾度となく飛ばされそうになり、とにかく身体に太鼓の柄の部分をしつかりと押しつけないと上手く叩けない状態であった。太鼓を叩き、御題目を唱え、被災地を歩き、一心に行脚を続ける青年僧。復興が殆



漁港にて黙祷を捧げる



海岸沿いを行脚

ど進んでいない寂しげな住宅跡地を歩く。そこには命日の被災地に見られる光景があった。流された家屋跡地に、華を手向け、線香を薫じ、手を合わせ佇む人々の姿。その瞳に映るのは、被災地の現状そのものだった。

色々な思いが各々交錯する中、午後二時四十六分が訪れる。団扇太鼓の音が鳴り止み、静寂の中に打ち寄せる波の音。一呼吸すると、防災無線からサイレンや梵鐘の音が湾内に響き渡った。誰もが、そして青年僧一同も静かに眼を閉じ合掌を捧げた。もう目には映らないが、そこには街があり、活気に満ちあふれていた漁港があった。一人一人の思いが、亡くなられた御魂に届けられた瞬間であったと思う。黙祷後、両地区とも卒塔婆を建て、小泉輝泰全日青会長(田老地区)・服部巧顕委員長(野田地区)が慰霊と復興祈願の回向を捧げた。

今回の行脚で気になったことが一つある。野田地区ではマスコミ関係者がほとんど居なかったこと。しかし、田老地区ではかなりのマスコミ関係者が居た。世界一の防潮堤があるからなのだと思う。記事にしやすいやうなことなのだろう。しかし、「御魂一人一人の重さは変わらない」マスコミを通じて見聞きする被災地の情報は、ごく一部のことだと感じて欲しい。現地に行つて、初めて分かることが多々あるのが現状である。一回行つたからではなく、何度も足を運んで現状を伝えて頂きたいと切に思った瞬間でもあった。

来年は宮城県で慰霊合唱題行脚を行う予定である。東日本大震災により甚大な被害を受けた東北ブロックでは、毎年三月に慰霊復興を祈り、岩手・宮城・福島の被災地を行脚し続けて行く。全国日蓮宗青年会並びに震災復興担当委員会は今後もサポートを続けて行こうと思う。

最後に、今後も数多くの被災地へのご支援を宜しくお願い申し上げます。

活動報告 2

奈良東大寺

花まつり千僧法要

■東日本大震災及び各地災害復興祈願

総務担当委員長 松森孝雄

四月二十六日、奈良・東大寺大仏殿に於いて『仏法興隆花まつり千僧法要』が執り行われました。この千僧法要は、昭和六十三年より毎年東大寺大仏殿において開催されており、本年で二十六回目を数えます。日本全国から宗派を超えた僧侶（全日本仏教青年会加盟団体）約一〇〇〇名余りの慶讃の人々が集い、心の救済と人類の福祉・世界の平和に寄与することを誓願し厳修されております。

本年は、東日本大震災第三回忌追悼慰霊、また日本・世界各地での災害など、世界中の天災人災殉難の諸精霊に御回向申し上げ、被災地の一日も早い復興へ『祈り』を捧げるべく『東日本大震災及び各地災害復興祈願法要』として開催されました。

全国日蓮宗青年会からは、小泉輝泰会長を含む三十六名の僧侶が出仕。様々な宗旨宗派の作法・習礼でのお勤めに参加することで、刺激を受け勉強にもなります。

私たち日蓮宗青年僧は、行列出発地である南大門脇の金鐘会館より、普段は閉門されている中門をくぐり大仏殿にいたるまで団扇太鼓を打ち鳴らし、唱題行脚で入堂いたしました。その後、各宗派の法式に則り法会が営まれ、日蓮宗としては小泉会長修法導師の元、木剣修法にて祈願させていただきます。

ご案内にも記しましたが、「日蓮宗の力強い法会に大変感銘を受けた」とのご好評を頂いたように、本化別頭の正儀に則った法会によってお題目結縁ができたこと、大変有



ご宝前修法



唱題行脚

活動報告 3

全日仏青主催 二〇一三全国大会

二〇一三 全国大会 in 大阪

■東シンポジウム

『東日本大震災から考える』

『地域の再生・多様性』

〈大阪市 真宗大谷派難波別院〉

総務担当委員長 松森孝雄

全日本仏教青年会主催の全国大会が、五月七日に大阪市の真宗大谷派難波別院の南御堂で開催され、超宗青年僧を中心に約三〇〇名が参加しました。釈徹宗師をコーディネーターにお迎えし、中沢新一先生、玄侑宗久師との三者でのシンポジウム。

地域の活力を高めて、今よりも幸福感の高い社会を作るためには経済の形を変えていかなければならない。そのティッピングポイントとなれば…。という主管（大阪府佛教青年会）側の意向のもとに進行されました。

開会式では東日本大震災物故者の追悼と被災地の復興祈願を含めた法要が厳修されました。

シンポジウムでは、まず震災後の地域コミュニティーの

再生について福島県在住の玄侑氏の意見が述べられました。震災を契機に「(福島県内に)どのような地域があるのかつぶさに分かってきた。村が一番立派だった。村長自身がほとんどの村民の顔を知っている。このコミュニティーの密度の濃さは、非常時には何物にも代えがたい」と話されました。

また何かを共同体で行う場合、「神社や寺院では、何でも村の皆でやるという古い共同体の仕方が残っている」とコミュニティーにおける神社仏閣の関わりも述べられました。それを受けて中沢氏は、昔は共同体の構成員が複数の役割をこなす例を提示し「百姓という単語にはあらゆる職業という意味があり、元々は農民に限定されていなかった」とし、古くから地域に宿っている人々の生きる力について述べられました。

その後も三氏によって、現代社会のシステムの問題点、TPPなど「今」の政治や経済の抱える限界点・問題点、そしてそれらの解決のヒントなどが話され、仏教のこれからの可能性に期待が込められました。

また中沢氏は、この全国大会が大阪で開催されている意義を踏まえ、「津波によって被害を受けた海岸線沿いに寺社仏閣が建てられ、大阪もその例外ではなく、四天王寺や住吉大社、そして熊野へと続く宗教都市としての側面を解説されました。

シンポジウムの最後には、様々な形で社会の問題に取り組む全国の青年僧にメッセージが贈られました。

玄侑氏は、「やっぱり何かを生み出すことが大事。組織をそのまま同じように続けることがストレスになることもある。タテが強すぎると面白い組織にならない。横のつながりを伸ばして、青年僧の生産性に期待したい」と組織としての青年会運営とその実行部隊である青年僧にエールを



桂浜にて唱題行



『東日本大震災から考える』シンポジウム

送った。
中沢氏は「仏教はまだこれから先がある思想で二十一世紀的な考えをやらんでいる。ただ、それを実現するには色々なものが付きすぎた。これを払う人々が出てほしいし、それは仏教青年会だと思う」と青年僧の活動に期待をかけられました。

活動報告 4
第五十一回
全国日蓮宗青年僧結集高知大会
〜維新伝心〜
結集担当委員長 **太田寛周**

合掌

平成二十五年五月九〜十日に第五十一回全国日蓮宗青年僧結集高知大会が開催されました。

四国初の結集大会でありましたが、全国各地より二百二十六名の多数の御参加を頂き、誠に有難う御座いました。

今回の結集は、渡邊実行委員長をはじめ中四国ブロックの実行委員会の皆様との熱い想いで、新たな一歩と『維新伝心』をテーマに、桂浜にて唱題行。妙國寺様にて檀信徒の皆様と共に僧俗一体となつて散華行堂を取り入れた法要、修法では東日本大震災で多くの尊い命を落とされた方々への供養と被災地の復興祈願、そして日蓮聖人の願行「立正安国」を青年僧一同が妙國寺様のご宝前においてお誓いし、高知大法要を無事円成致しました。

今回、懇親会にては来賓席を設けず、平等にクジで席を決め隣には誰が来るのか分からず、新しいご縁を頂いた方や、古き友と昔話に華を咲かせた方や様々なご縁を頂き、

膝を突き合わせ日蓮宗青年僧としてのこれからの展望を熱く語り合い、大変有意義な懇親会となりました。今までの結果とは趣が違い記憶に残る結果大会になった事と思います。まだまだ、東日本震災で被災された現地の復興等、問題視しなければならぬ点は多々ございますが、この結果大会で頂いたご縁を第一歩とし維新伝心の気持ちで精進し、私達同心の行者が力を合わせ集い一致団結した時の漲るパワーを持って乗り越えていきたいと想う次第でございます。

最後になりましたが、今回の高知大会に際しまして会場となりました妙國寺様、渡邊実行委員長並びに中四国ブロックの実行委員会の各聖、甚大なる御協力御支援、誠に有難う御座いました。

ここに第五十一回全国日蓮宗青年僧結集高知大会の御報告と御礼を申し上げます。

再拜

活動報告 5

沖縄慰霊行脚

長野県日青会 加藤要貴

平成二十五年六月二十三日(日曜日)、沖縄県糸満市に於きまして、全日青四十七名が「沖縄慰霊行脚」参加しました。

一九四五年の六月二十三日に日本軍が太平洋戦争の沖縄戦に於ける組織的戦争の終結をした事にちなみ、六月二十三日は沖縄県により「慰霊の日」に制定されております。

この「慰霊の日」は毎年沖縄県限定で国立機関以外の役所・学校は公休日となっており糸満市摩文仁の平和記念公



糸満市街地を唱題行脚



妙國寺様にて大法要

園に於いて沖縄県・沖縄県議会主催の沖縄全戦没者追悼式が行われております。

追悼式には沖縄県知事、総理大臣、衆議院議長、参議院議長沖縄戦犠牲者の遺族、その子孫の方々が参列し、式典中の正午には黙祷が行われ、戦没者への追悼の祈り、世界恒久平和の願いが捧げられます。また県内各地の戦跡・慰霊塔に於いても慰霊祭が行われております。この「慰霊の日」に合わせ琉球山法華経寺様と神奈川県第一部日青会様は長年に亘り唱題行脚をされております。

私は平成二十二年度の加行所出行後沖縄慰霊布教に参加させて頂いた経験があり、その際に正伝師下が「沖縄は供養しても供養しきれない地である」と仰られていた事が強く心に残っております。今回の行脚はその言葉を胸に秘めて、立正平和運動委員の一員として参加させて頂きました。

行脚隊一行は法華経寺様に午前六時四十分集合、バスにて糸満ロータリーへ移動後、午前八時三十分に行脚を開始しました。

「今行脚をしているこの道路の下にも御遺骨が埋まっているかもしれない」と言うお話を聞き一步一步、慰霊の願いを込め御題目を唱えさせて頂きました。ひめゆりの塔、健児の塔、日蓮宗僧侶(慈厚院日勇上人)でもあった沖縄防衛第三十二軍・長勇参謀長が祀られている黎明の塔等各所で一読をさせて頂き、午前十一時頃行脚隊は無事平和祈念公園に到着致しました。追悼式前に一読後、午前十二時に式典参列者の皆様と共に黙祷を捧げ、その後バスにて法華経寺様へ移動、慰霊法要を厳修し全行程終了となりました。

沖縄では現在も御遺骨の収集がされており戦争の傷跡が強く残されております。慰霊行脚に於いて戦没者の方々へ

供養をさせて頂く事は戦争の愚かさを訴える事であり、「いのち」の尊さを伝える事でもあります。我々は立正平和の願いを込め、この行脚を行い続ける使命があるのだと領解致しました。この伝統ある慰霊行脚に参加をさせて頂き、「立正安国」の祖願を心新たに体させて頂いた事は、法悦に他なりません。

最後になりましたが、運営に御尽力を頂いた各聖に心より感謝御礼申し上げます。

活動報告 6

長崎慰霊行脚

新潟西部日青会 大橋智憲

去る平成二十五年八月二日（金曜日）長崎市にて、長崎日青会主催「長崎原爆殉難者慰霊行脚」に参加させて頂きました。参加者は長崎日青会二十九名、全日青二十一名の計五十名での行脚です。

今年市内西山町を出発し、原爆落下中心地を通って平和祈念像がある平和公園へ向けて約6kmの道のりを唱題行脚しました。爽やかな潮風を感じながら長崎特有の坂道を進み、目に飛び込んでくる長崎港の素晴らしい景色に、しばし心奪われてしまいました。しかしながら、すぐさま約七十年前の太平洋戦争で、八月九日の原爆投下により約七万四千人もの多くの方が犠牲になられたということが脳裏に浮かびました。今日の平和な暮らしは、戦争被害者となった多くの方々への犠牲の上に成り立っている事実を再認識し、犠牲者の御霊に法華経・御題目が届かんことを思い、精一杯の声を出し、平和公園を目指しました。

目的地の平和公園に到着し、有名な平和祈念像の前で一



平和祈念像前にて慰霊供養



沖縄平和記念公園にて集合写真



長崎市内を唱題行脚

読いたしました。そこに居合わせた研修のために訪れていた高校生の方や、地元の方々が共に合掌され、平和への祈りを捧げる姿は忘れられることができません。

実際に参加し、その場所に向かえば感じ取ることのできないものが間違いなくそこにあるのだということを確認できた行脚になりました。是非来年は一人でも多くの地元管区の会員と共に参り、その思いを共有できたらと願ってやみません。

今回、初めての参加でしたが、長崎日青会会員の皆様のご親切・丁寧で心のこもった案内誘導等をいただきまして、何の不安もなく日程の最後まで安心して充実した時間を過ごすことができました。今回の長崎慰霊行脚を企画運営いただきました長崎日青会会長宮崎泰彦さんはじめ会員の皆様へ心より感謝申し上げます。

活動報告 7

全日青被災地復興支援
ボランティア活動

東福島県南相馬市

震災復興担当委員長 梅澤宣周

平成二十五年七月三十日、梅雨の鬱陶しい暑さが続く福島県南相馬市。初夏の被災地へ全国日蓮宗青年会は「東日本大震災復興支援ボランティア活動」を呼びかけ、全国から約三十名の青年僧が南相馬市ボランティアセンターに集結した。

七月後半の東北地方は梅雨真っ只中の時期である。当日の天候は、雨時々曇り、最高気温は三十一度を記録。ボランティア活動内容は草刈り作業、瓦礫撤去作業、ビニールハウスの撤去作業。作業場所は大津波被災地区である福島県南相馬市小高地区の住宅と農場の二ヶ所だった。

そこは、東日本大震災の津波被害を受け、さらには福島原発による放射能被害の規制区域となっていた。街には雑草が生い茂り、家屋が破壊され、まだ瓦礫が散乱している状態もあちらこちらで見受けられた。治安はとも悪く、あちこちで窃盗や強盗が発生しているようで、警官の数が非常に多かった。規制区域は、通行止めの看板と共に刑務所の扉のように厳重なゲートで封鎖され、警官が常駐している。人通りは極めて少なく、復興支援関係者、警官、地元の人ほとんどしか見かけず、子供の姿は全く見かけない。映画などでよく見る、まさにゴーストタウンと言える状態であった。本当にここは日本なのか？と我が目を疑いたくなった。街自体の時間が、平成二十三年三月十一日で止まったまなのである。

今回の活動場所は、一時帰宅許可は下りているが、まだ



南相馬市ボランティアセンター前にて



震災慰霊碑にて供養を捧げる

居住許可は下りていない地域であった。原発による放射能被害や風評被害により、多くの地元民は他地域へ移住しているが、地元を愛し、幾度となく足を運んでいる人も少なくない。そのような人達は、支援活動を一刻も早く進めて欲しいと考えている。

福島県は他の被災地とは違い、放射能の問題が絡む為、支援活動にも制約があるが、南相馬市ボランティアセンターでは、地域住民の要望に少しでも添うべく、支援活動を行っている。作業場所は殆どが草で埋もれ、参加者を二グループに分け、草刈作業が中心に、茂みの中に隠れている瓦礫撤去も並行して行った。

草刈り作業は、奥行約三十メートル程のビニールハウス三件の周囲と、ハウス内の作業となった。外は雨、中はハウスの熱気で蒸し暑く、全身泥と汗塗れになりながらの活動であった。草刈り後の草は湿気を含んで非常に重く、手作業での運搬は重労働であったが、みんなで協力し合いながら作業を行った。草刈作業の他に、ビニールハウスのビニール撤去作業も行った。また、草の運搬の際に、付近から出てくる瓦礫【木材・畳・可燃物・家電・陶器・ガラス・タイヤ】など分別して纏めていく。草むらに隠れていた瓦礫は様々で、木材や、畳などは半分以上が腐敗していた。現地ではそういった些細なもので、震災から二年四カ月という時間の経過をようやく感じることが出来る。

何の因果か…、お坊さんたちが活動するからなのか…、活動場所の前には集落の共同墓地があり、半分近くの墓石は転倒し破損している状況であった。数人で傾いた墓石を修復しようと試みるも石塔の余りの重さに断念せざるを得なかった。

被災地の状況を目の当りすると、南相馬市で生活をしてきた人々の先祖から続く、尊い歴史、文化、想い、すべて

が壊れ、時が止まってしまったのだと実感した。きつと参加者はそういった福島県の現状を痛感しながら、作業に取り組んだに違いない。

ボランティア作業終了後、綿津見神社に建立された七十一名の名が刻まれた震災慰霊碑に赴き、生花を添えて、参加者全員で読経供養、焼香供養を行い、犠牲者の菩提を弔うと共に被災地の早期復興・復活の祈願を捧げた。

この度の支援活動の全行程終了後、小泉輝泰会長も、「今回の活動を機に、更に我々が出来る事、今出来ることを続けて行きましょう」と次回開催も視野に、支援の継続を全国の青年僧に向けて述べた。

福島県は他の被災地と違い、津波の爪痕だけではなく、「原発」「放射能」の問題もあり、復興と呼べる程の進展はないと言つてよい。それと同時にボランティア支援は「放射能」の問題もあるのだろう、また行政の体制が確立していないのもあるのだろう、他の被災地と比較しても支援は圧倒的に少ないのが現状である。無人化した町は何度見ても言葉では言い尽せないが、いつかまた人々が集い活気ある町に戻る事を切に願う。

東日本大震災から二年半が経とうとし、震災報道の風化が進んでいると実感している。復興とは何か、支援とは何か、それぞれの立場、考えが千差万別である事は仕方ないかも知れないが、同じ国土で起きたこと。今しかできない支援、そしてこの事実を後世に、また改めて全国へ伝えなければならぬと強く感ずる。

「できる人が、できる時に、できる事をする」

南相馬市のボランティアセンターで耳にした言葉。この事を深く胸に刻み、今後も被災地の一助となるよう努めていきたい。更なる被災地への継続的なご支援を宜しくお願ひ申し上げ、活動報告とさせていただきます。

活動支援金・表賀拝受

ご支援・ご協力を頂いた方のご芳名(順不同・敬称略)

法蓮寺 渡辺 照敏	弘法寺 鈴木 惠一	萬福寺 我妻 龍岳
清澄寺	連紹寺 米田 宣雄	泰福寺
東京都北部宗務所	妙法寺 蔵本 知宏	本照寺 須藤 教裕
京都府第一部宗務所	妙法寺 齋藤 朋久	妙典寺
栃木県宗務所	法蓮寺 塩崎 望巳	大教寺 高崎 陽堂
大阪府和泉宗務所	妙法寺 張田 珠潮	妙教寺 渡邊 泰秀
広島県宗務所	正法寺 畠山 日慶	妙經寺
妙國寺 岡部 日聡	妙本法寺 畠山 日慶	満願寺 堀田 泰盛
本澄寺 柴田 寛彦	妙本法寺	常在寺 合川 天心
妙覚寺 村田 教清	光明寺 田中 文教	法華寺
海長寺 菅野 日彰	壽遠寺 兵賀 栄真	長源寺 牛田 智光
本行寺 瀬川 觀照	妙樂寺 永田 一孝	妙浄寺 藪木 恵照
孝勝寺 中野 日演	明善寺 古田 寿厚	法妙寺 神藏 義一
千葉南部宗務所	妙法寺 小倉 日教	法立寺 渡邊 彰良
鏡忍寺 原 俊道	本能寺 保田 義彰	広華寺 石伏 叡齋
妙興寺 小沢 涌文	本覺寺 井田 湛孝	法華寺 内林 智能
東京南部宗務所	大阪日青会	法華寺 伊藤 太雲
神奈川第二部宗務所	青森日青会	妙進教坊 池上 要靖
千葉東部宗務所	智恩寺 西山 是文	
実相寺 松永 慈弘	長谷川法律事務所 長谷川 正浩	
本満寺 伊丹 栄彰	妙昌寺 村井 惇匡	
藻原寺 持田 日勇	高生寺 荻野 泰継	
富山県宗務所	大光寺 瀧川 真弘	
愛知県尾張宗務所	妙光寺 関戸 堯海	
神奈川第三部宗務所	経王寺 鈴木 寛長	
報恩寺	自證寺 山田 是佑	

本会活動に多大なるご支援・ご表賀を賜り、心より御礼を申し上げます。充実した活動のため、活用させていただきます。ご協力有難う御座いました。

平成24年度 全国日蓮宗青年会 財務決算報告

平成24年5月25日～平成25年5月8日

収入の部

(単位 円)

科 目	24年度予算額	24年度決算	増 減	備 考
単位日青会分担金	1,800,000	1,869,000	69,000	53日青会
宗務院助成金	1,000,000	800,000	-20,000	
機関誌広告費	300,000	350,000	50,000	10業者
活動助成金	1,000,000	2,750,000	1,750,000	含50周年会計より分配金
前年度繰越金	1,697,049	1,697,049	0	
雑 収 入	65,000	4,515,000	4,450,000	宗報原稿料・記念誌作成費
収 入 合 計	5,862,049	11,981,049	6,119,000	

支出の部

(単位 円)

科 目	24年度予算額	24年度決算	増 減	備 考
事 務 費	1,000,000	1,350,674	350,674	項1,2の合計
各担当委員会事業費	750,000	825,254	75,254	11委員会・機関誌発行費等
ホームページ経費	250,000	525,420	275,420	
会 議 費	550,000	496,894	-53,106	項1～4の合計
代 表 者 会 議	50,000	8,700	-41,300	
執 行 部 会 議	120,000	128,194	8,194	4回
事 務 局 会 議	50,000	30,000	-20,000	2回
各担当委員会会議費	330,000	330,000	0	11委員会
事 務 通 信 費	430,000	414,551	-15,449	
出 張 費	1,360,000	1,173,770	-186,230	項1～4の合計
ブロック助成金	450,000	270,070	-179,930	
全 日 仏 青	150,000	270,710	120,710	
執 行 部 会 議	360,000	266,360	-93,640	
そ の 他	400,000	366,630	-33,370	祝賀会・打合せ会議等
助 成 金	1,400,000	1,200,000	-200,000	項1,2の合計
ブロック助成金	900,000	700,000	-200,000	
結 集 助 成 金	500,000	500,000	0	
全日仏青負担金	150,000	270,000	120,000	加盟負担・協賛広告・大会負担
災害救援対策基金	200,000	200,000	0	
慶 弔 費	50,000	0	-50,000	
予 備 費	722,049	0	-722,049	
支 出 合 計	5,862,049	5,105,889	-756,160	

〈収入〉 11,981,049 - 〈支出〉 5,105,889 = 〈次年度本会計繰越金〉 6,875,160円

以上のとおり報告いたします

全国日蓮宗青年会 会長 小泉輝泰
 財務 鷗澤貫陽
 監査 川上洋行
 財務 藤井淳至

総本山身延山久遠寺御用 日蓮宗大荒行堂御用

数珠製造・仏像仏具・各種記念品土産一式

若松屋数珠仏具店

山梨県南巨摩郡見延町見延3700

TEL 0556-62-0145 FAX 0556-62-0191

振替／0045-5-1624 取引銀行／山梨中央銀行見延支店

E-mail wakamatu@eps1.comlink.ne.jp

ホームページ URL <http://www.eps1.comlink.ne.jp/~wakamatu/>

総本山身延山久遠寺・日蓮宗大荒行堂 御用達

身延山ご参拝お土産品 各種記念品等

浪花屋珠数仏具店

店主 深澤永寿

〈東谷参道の老舗〉御珠数・仏像・仏具・太鼓・掛軸・経本・線香・木鉦・印伝・水晶 等

多少に関わらず御用命お待ちしております

〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町身延3550 TEL 0556-62-0200 FAX 0556-62-0771

伝えたい! をお手伝いします

<http://www.e-for.jp/>

- | | |
|------------------|------------------|
| 取
扱
品
目 | 印刷全般 |
| | 機関誌・報告書・名簿・他ページ物 |
| | パンフレット・ポスター・会社案内 |
| | 封筒・名刺・帳票類 |
| | ノベルティ・他特殊印刷 |
| | メディアミックス |
| | ホームページ企画・作成・管理 |
| | ビデオ撮影・編集・パッケージ化 |
| | 電子書籍・出版 |
| | プログラミング・データ処理 |
| 掛軸・文化財レプリカ作成 | |

株式会社 イーフォー

〒141-0031 東京都品川区西五反田8-7-11 アクシス五反田ビル202
TEL 03-3779-1140 FAX 03-3779-1141

